



展示の用意によって動く「絵金蔵展示」



懐かしい芝居小屋の情緒演出「弁天座」



展示の気遣いを感じず「絵金蔵展示」(絵金蔵)



「絵金蔵」外観

## 時代色の 「絵金蔵」と 平成の芝居小屋 「弁天座」



田村天来

に生まれ、八歳、江戸に出て狩野派で修行した後、三年後に帰郷して土佐藩家老御内家の舞踊絵師となりますが狩野探幽の絵巻を描いたという縁起をかりられたことで、狩野派を破門、高知城下を流浪させて放浪の身となりました。石垣の船屋で働きながら神社の絵師や絵馬提灯、屏風などあらゆるものに作興し、精進的な作風で幕末の市民社会を風靡しました。南町には毎月がいたことが

ます。

ら長く滞在し、まるには芝居屏風が数多く残ることになりました。平成一七(二〇〇五)年に始まった「絵金蔵」は、彼の生涯と絵巻の世界を相対する資料館を兼ね、町内に残された三枚の屏風絵巻等を収蔵・保存しています。彼の残した芝居屏風絵巻は、年に一度、堀田八幡宮の宵宮と、商店街の発展を願って昭和五二年(一九七七年)の「土佐赤井絵巻祭り」で公開され

平成一九年七月、串野町「絵金蔵」向かずに「弁天座」が完成しました。明治三〇年代に建設された芝居小屋「弁天座」を復活させたもので、回り舞台や花火、精那など本格的な設備を備えています。建物には黒漆の木材を多用し、骨工木、土を考へた開閉式のスライドアケル新築物の行き届いた設計となっています。住民に親しまれながら廃業した炭焼「旭湯」の趣のある舞台も生かされた造りに安くて作り出される人の目を

楽しませて、

築金蔵の運営は土佐絵巻歌舞伎在来会のメンバーを中心に行われ、「絵金蔵舞伎」はもとより、地場や世代を超えた文化交流が行われています。

「絵金蔵舞伎」とは、江戸末期の絵師金蔵が残した芝居絵巻を再現したもので、平成五年に市内有志が集って「土佐絵巻歌舞伎伝承会」を結成。毎年夏の土佐赤井絵巻祭りで公開しています。絵巻は、高知城下の繋がりの家



「弁天座」内観



年一度、絵巻の芝居絵巻が展示された「土佐赤井絵巻祭り」